

総合防災訓練

光市

高潮・洪水から地域を守れ！

山口県総合防災訓練2007 in 光

■高潮と洪水が同時に発生！
起こりうる災害に備えて
万全の対策を

万一の災害に備えて、地域住民の防災意識を高め、防災関係機関の協力体制を確立するため、毎年実施されている「山口県総合防災訓練」。平成19年は光市を会場として行われ、県、県警、陸上自衛隊、消防、地元事業所など69団体から約1700人が参加しました。（主催／山口県防災会議・光市防災会議）

光市は平成3年に台風第19号による高潮被害、平成17年に台風第14号による洪水被害を受けており、特に水害対策が重要視されている地域です。これを受けて平成18年には、高潮や洪水の発生による浸水想定状況と避難場所を示した「高潮・洪水ハザードマップ」を作成、地域の住民に配布されています。

今回の訓練では「平成19年9月1日夜遅くから



はしご車による救出作業



バス追突事故
救出作業

災害現場からの
救出作業



9月2日未明に

けて、台風X号が
光市付近に上陸し、
高潮による甚大な

浸水被害が発生。また大雨による増水と高潮で、河川の堤防が決壊し、島田川流域で河川氾濫による浸水被害が発生。被害地域では電気・ガス・水道・電話の多くが使用できない」という想定のもと、ハザードマップを活用した住民避難訓練も含め、災害に対する実践的な救助、避難訓練を行いました。

■本番さながらの緊張感に
会場が震える

会場は光井会場（スポーツ交流村）、光市役所会場、島田会場を主要会場に市内全17カ所。光市役



緊迫感漂う応急処置

所会場では、災害対策本部の設置・運営や情報伝達、給水支援訓練、島田会場では島田川河川敷での消防防災ヘリコプターと地元消防の連携による救助訓練など、それぞれの会場で実践に即した訓練が実施されました。

なかでも光井会場で行われた「発災即応型水難住民救出救助訓練」は、警察、消防、自衛隊、海上保安庁とDMAT（※）が一体とな

り、海上での救出訓練を行う救出訓練。救命ボードで漂流者を救い、はしご車で持ち上げる様子や、ヘリによる救出作業など、本番さながらの緊張感が漂い、見学の方々も固唾を飲んで見守っていました。また、バス追突事故救出訓練も行われ、救助者が次々とテントやシエルターに運ばれる様子は、まるで実際の現場を見るようで、改めて災害の怖さと備えの大切さを感じさせられました。

※DMATとは：

Disaster (災害) Medical (医療) Assistance (援助) Team (チーム) の略。災害時に活動できる、機動力のある、トレーニングを受けた医療チーム。現在厚生労働省のもと整備されています。



テキパキと木材を撤去

■息のあった作業で 速やかに障害物を除去

山口県建設業協会周南支部は、光井会場で行われた訓練に参加。道路に倒れ、通行を妨げている木々をバックフォアを使って除去し、作業中の安全誘導訓練を行いました。



作業中の安全もしっかり守ります

た。作業に参加された3名の皆さんにお話をお伺いしたところ、作業指揮を担当した時盛建設(株)の弘英雄さん「平成17年の台風14号時には、道路のゴミや土砂の除去作業を行いました。災害時は現場の判断が大切になります。普段からその心構えをしておきたいですね」



弘英雄さん

バックフォアの運転を担当した菊屋産業(株)の礪本泰夫さん「実際に災害の現場に出たことはないですが、緊急時には24時間の待機が



礪本泰夫さん

かかることもあります。台風の後には土砂崩れなども多く、いつどこで二次災害が起こるかわかりませんから、十分な安全を確保することが大切だと思っています」



バックフォアでの作業は十分安全を確保して行います

誘導を行った筒井建設(株)の安永芳喜さん「安全な誘導は、常に周りに注意を払い、緊張感をもって行うことが大切だと思っています」



安永芳喜さん

災害時は特に落ち着いて取り組みたいです」と、防災への気持ちを新たに語ってくださいました。

突如として人々を襲う災害。圧倒的な自然の猛威。日々進化する科学の中で、災害から人を守る技術も年を追うごとに優れていきます。それでも、やはり人と人と協力なくしては、人を、地域を守ることはできません。

消防・警察・自衛隊・当協会など各関係機関の連携と、住民の輪でつくりあげる地域防災。その重要性を参加者一人一人が再確認した総合防災訓練となりました。

